

暗径

異世界への通り道

日本文化において異世界を題材としたものは神話が生まれた時代から今日に至るまでに強く支持され、今や固有の文化となりつつある。異世界そのものに共通点はあまり見られないが、うす暗く細い道を通ることで異世界に至るという特徴が存在し、その特徴を暗径と名付けた。

敷地予定地は古くからの町屋が多く残る京都市上京区である。京都などの町屋が多く残る場所において、町屋空間がつくり出す路地はまさに天然の暗径であり、異世界のような魅力的な雰囲気を生み出している。そこで路地空間をさらに暗く、細くすることでより異世界性が増し、それにより建物自体が観光スポットになるような町屋を改修した喫茶店を設計した。

長く暗い道を抜けた先には町屋が放つ独特な空気間により生まれた現代とは異なる空間が広がっている。個室群からなる客席は、路地と対照的で明るく開放的な空間になっており、訪れた人を現代社会の喧噪から切り離し、安らぎを与える。

